

# 報告案件資料

## <再評価>

1. 那珂川直轄河川改修事業
2. 久慈川直轄河川改修事業
3. 富士川直轄河川改修事業
4. 渡良瀬川上流特定構造物改築事業(中橋)

令和7年12月25日

国土交通省関東地方整備局



## （再評価）久慈川直轄河川改修事業

## 1. 目的
















- ・ 戦後最大洪水である令和元年10月洪水(令和元年東日本台風)が再び発生しても災害の発生防止又は軽減を図る。

## 2. 事業概要

- ・計画対象区間延長：47.8km
- ・事業概要：堤防整備、河道掘削、浸水防止対策等
- ・事業期間：令和3年～令和32年
- ・全体事業費：約509億円（前回380億円）

### 3. 概要図



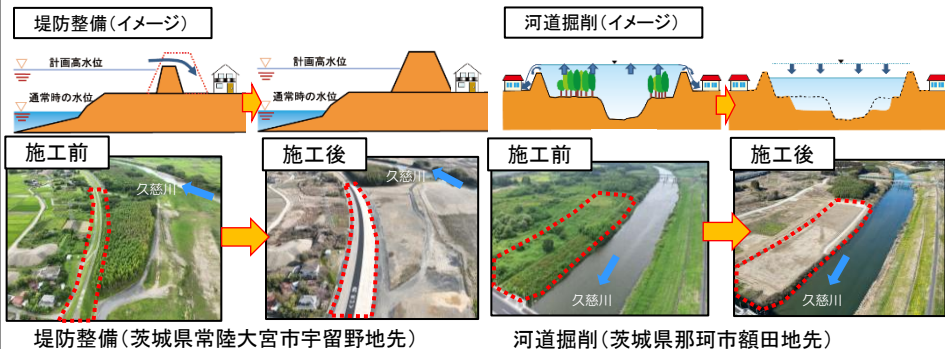
| 凡 例   |   |
|---|---|
| 施工済   | 概ね7年間<br>(R8～R14)   |
|    |  堤防の整備(露提含む) |
|    |  河遠掘削        |
|    |  浸水対策        |
|    |  橋梁改築        |
|    |  河川防災ステーション  |
|    |  地震津波対策      |
|  | 基準地点  |
|  | 主要地点  |
|   | 計画対象区間  |

【主な整備内容に対する進捗率】 R7.3時点

| 整備内容         | 整備区間延長    | 進捗率  |
|--------------|-----------|------|
| ■堤防の整備(霞堤含む) | 約22km     | 約40% |
| ■河道掘削        | 約3,000千m3 | 約44% |
| ■浸水防止対策      | 2箇所       | 0箇所  |
| ■河川防災ステーション  | 1箇所       | 0箇所  |
| ■地震・津波防止対策   | 2箇所       | 2箇所  |

#### 4. 事業の進捗状況等

- 茨城県常陸大宮市宇留野地先等で堤防整備、茨城県那珂市額田地先等で河道掘削を実施。
- 土質調査結果による土砂改良の増、現地精査による堤防整備構造の変更に伴う増額。



## 5. 事業の効果等

- ・ 令和元年10月洪水に対して、河川の洪水による家屋等の浸水被害を解消。
- ・ 計画規模を上回る洪水に対しては、人命・資産・社会経済の被害を軽減。

## 6. 事業の投資効率性

※B,C:現在価値化後

| 【全体事業】       | 【残事業】        |
|--------------|--------------|
| (前回(R2実施))   | (今回(R7実施))   |
| 総便益B:約1,653億 | 総便益B:約1,071億 |
| 総費用C:約244億   | 総費用C:約127億   |
| B/C:6.8      | B/C:8.5      |

※ 社会的割引率の参考比較値 全体事業7.4 (2%)、9.9(1%)、残事業12.2 (2%)、15.2(1%)

## 7. 対応方針(案)

- ・当該事業は、現段階においても、災害の発生の防止又は軽減を図る目的における必要性は変わっておらず、引き続き事業を継続することが妥当と考えます。

# (再評価) 富士川直轄河川改修事業

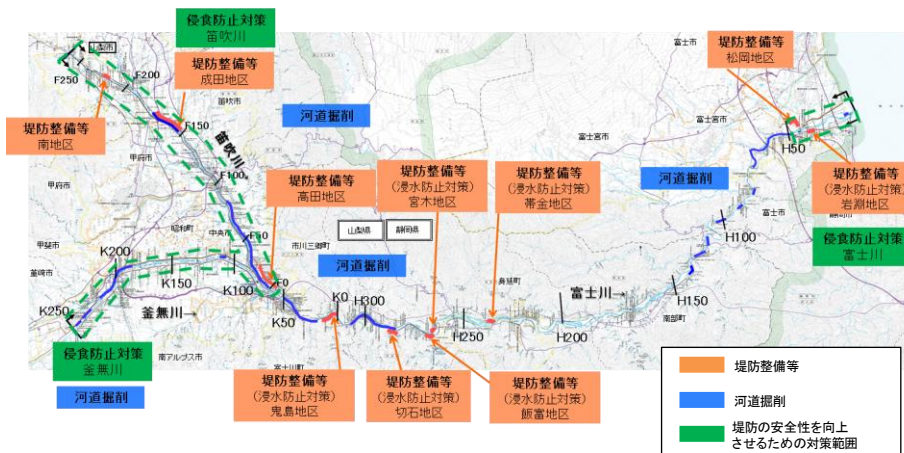
## 1. 目的

- 戦後最大規模の洪水(富士川・釜無川については、昭和57年(1982年)8月洪水、笛吹川については昭和34年(1956年)8月洪水)の降雨量に、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した整備計画目標流量に対して洪水による災害の発生防止又は軽減を図る。

## 2. 事業概要

- 事業概要: 堤防整備等、河道掘削、堤防の安全性を向上させるための対策
- 事業期間: 令和8年度～令和37年度
- 全体事業費: 約479億円(前回約353億円)

## 3. 概要図



### 【主な整備内容】

R7.11時点

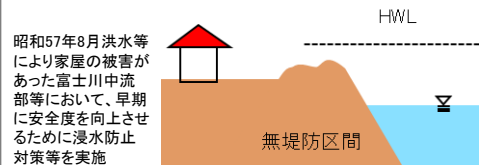
| 整備メニュー | 単位              | 富士川          | 釜無川        | 笛吹川        | 合計           |
|--------|-----------------|--------------|------------|------------|--------------|
| 堤防整備等  | km              | 5.2          | 1.0        | 2.7        | 8.9          |
| 河道掘削   | 万m <sup>3</sup> | 220<br>(720) | 0<br>(240) | 200<br>(0) | 420<br>(960) |
| 侵食防止対策 | km              | 0.3          | 2.9        | 0.9        | 4.1          |

※ ( )内は民間活力の活用として見込んでいる数量

## 4. 事業の進捗等

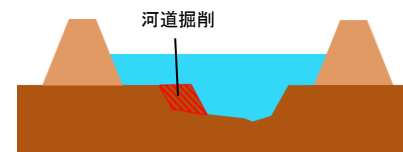
### 堤防整備等イメージ

- 堤防が整備されていない区間や、堤防の高さや幅が不足している区間において、嵩上げや拡築を行う。



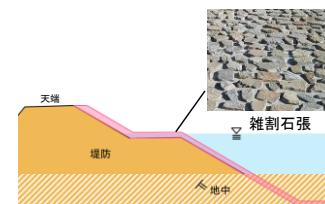
### 河道掘削イメージ

- 洪水を安全に流下させるために必要な箇所等において、河道掘削を実施する。



### 浸水防止対策イメージ

- 人口・資産の集積する甲府盆地や富士平野をはじめとして所要の安全性を向上させるための整備を計画的に実施する。
- また、水衝部や堤防付近で高速流が発生する箇所においては、状況を監視し、必要に応じて護岸整備や侵食外力を低減する対策等を実施する。



## 5. 事業の効果等

- 戦後最大規模の洪水の降雨量に、気候変動により予測される将来の降水量の増加等を考慮した洪水による災害の発生防止又は軽減。
- 計画規模を上回る洪水や整備途上において施設の能力を上回る洪水等に対しては、人命、資産、社会経済の被害をできる限り軽減。

## 6. 事業の投資効率性

※B,C: 現在価値化後

### 【全体事業】(前回 R2)

総便益B : 約2,034億円  
総費用C : 約436億円  
B/C : 4.7

### (今回)

総便益B : 約14,103億円  
総費用C : 約238億円  
B/C : 59.3

※ 社会的割引率の参考比較値 94.9 (2%)、122.6 (1%)

## 7. 対応方針(案)

- 当該事業は、現段階においても、災害の発生防止又は軽減を図る目的における事業の必要性は変わっておらず、引き続き事業を継続することが妥当と考える。



